

## マスコミ講座受講生

### 「NHKふれあいミーティング」に大学生の目線で提案

就職課が主催するマスコミ講座受講生7人が、NHK横浜放送局で11月18日に行われた「ふれあいミーティング」に参加し、「大学生の目線」からの提案をした。

横浜放送局からは、本学の卒業生である前出健吾副局長(昭51法)と、「こんにちは ずっと6けん」のキャスター・日高治子さん(平11経営)を含めた6人が、放送業界のさまざまな現状を紹介しながら、大学生の意見に真摯に耳を傾けていた。

NHKでは、各世代の視聴者から運営事業への意見を聞く機会として、このミーティングを随時実施している。今回のテーマは、「デジタル時代における各放送局の財源のあり方」と「テレビ局に求めるサービスとは」。財源確保については「テレビ購入時にあらかじめ付加しては」「見たい番組・情報のみに払うシステムにしてはどうか」「若者向けの番組やイベントを増やし、親近感をもってもらっては」といった意見が出された。

ミーティング後には、ミニ就職相談会として、就職活動直前の学生たちに、面接でのアドバイスなども行われた。

キャスター志望という法学部の女子学生は「難しいテーマで最初は緊張していましたが、卒業生がいらっしやっただけで、気楽な雰囲気でお話しすることが出来ました」と話した。

このミーティングの様子は、NHK横浜放送局のホームページで公開されるほか、1月15日(月)の総合テレビ「こんにちは ずっと6けん」(午前11時05分～同54分)枠内で放送される予定となっている。(局の都合により変更になる場合があります)

## 体育祭「サーティーナイン」「ARROWS」

一部、二部の体育祭が生田キャンパスで開催され、学生たちはスポーツを通じて交流を深めた。

二部体育祭(藤枝恵介実行委員長・経済3)は10月29日に行われ、「サーティーナイン バレーボール同好会」がドッジボール大会を制した。

また12月2日、12チームがバスケットボールで汗を流した一部体育祭球技大会(笠原佑造実行委員長・経営4)は、「ARROWS」が優勝した。



▲ドッジボール優勝



▲バスケットボール優勝

## キャンパスからセクハラをなくそう

### セクハラ防止委員会が研修会

11月21日、神田キャンパスで、学生、教職員らを対象とする「セクシュアル・ハラスメント問題を考える—米国三菱自動車製造セクハラ訴訟を事例として—」が開かれた＝写真。

講師の堺昭治氏（ポーターコム代表取締役社長、元北米三菱自動車副社長）が当時、労務担当役員として関わった96年の訴訟を事例として、セクハラをめぐる米国での事情および日本にとっての教訓について講演した。

内山哲朗同委員会委員長（経済学部教授）は「セクハラ問題はどこでも起こりうることを念頭におき、キャンパスからのセクハラ追放を！」と呼びかけている。



## 保健講座—料理教室

### 一人暮らしでもバランスとれた食事を

保健室と学生相談室共催の保健講座「料理教室」が11月14日、生田キャンパス近くの東京ガス料理教室で開かれ、20人が参加した＝写真。

定期健康診断時の問診や日常の相談で「一人暮らしで、何を食べていいのかわからない」「いつも外食で同じメニューばかり」「風邪をひきやすくなった」といった相談が目立ったため、「健康なキャンパスライフのために栄養のバランスのとれた食事とは何かを知り、身近な食材を使っての手軽な料理教室を」と、今回の企画となった。



栄養士の指導で協力しながら「野菜たっぷりシーフード丼」「豆腐とりのりのスープ」などを作った参加者たちは、「簡単で楽しかった。自分でも作ろうと思った」「次回もすぐに企画してほしい」と感想を話した。

《New Ground -新しい見方<8>》

## 学生の成長促す プロジェクト発表会

鈴木啓太(ネット情報3・ジャーナリズム研究会)

忙しい、疲れた、眠い。——いや、あともう少し。がんばろう——。

おそらく、現在のネットワーク情報学部3年次生の多くはそういった気持ちを抱いているに違いない。来たる12月16日は、プロジェクトデモ会である(詳細は学部ホームページ参照)。

ネットワーク情報学部3年次生の必修科目となるこのプロジェクトとは、他学部におけるゼミナールに当たるものだ。しかしゼミナールとは違い、目標が具体的に設定されていない。大枠でのテーマは与えられるが、実際にどのようなものを作成するかということは、学生同士が議論し、決定するものである。つまり、目標設定から始まり、計画、実行、発表、すべての段階においてその能力が試されることになる。さらにはコミュニケーション能力も、プロジェクトを円滑に進め、成功に導くために重要である。総合的に見て、ゼミナールより学生自身の能力が問われると同時に、主体的に問題を解決していかなければならないため、学生が大きく成長する可能性を持っているのである。

たかが学生と侮るなかれ。プロジェクトによる作品の中には驚くべき完成度のものも多い。毎年20数個のプロジェクトがあり、その分の作品が生まれる。それぞれ3年間の学習による成果として魅力あるものだが、中でもデモ会のアンケートでベストプロジェクト賞に輝く作品は、誰もがその発想と技術レベルに驚くだろう。一昨年は、インターネット上のインテリアショッピングモールを企画開発したグループ、昨年は携帯電話を用いて、周囲に流れる音楽の情報を取得するシステムを企画開発したグループがあった。それぞれベストプロジェクト賞に輝き、私の印象に強く残ったプロジェクトである。今年もそれらに負けない素晴らしいプロジェクトが登場するに違いない。

一見の価値あり。プロジェクトデモ会にぜひ、足を運んでいただきたい。

## 田邊ゼミ「通訳コンテスト」

### Uさんが1位

文学部の田邊祐司ゼミ恒例の通訳コンテストが11月19日、生田キャンパスで行われた。「日本人と英語発音」をテーマとしたゲストスピーカーによる講演を、4年次生10人が英日・日英に通訳。審査の結果、Y.Uさんが1位、近藤聡美さんが2位、中野愛さんが3位に輝いた。

## 専フィル定期演奏会

### 「ミューザ川崎」で開催

第34回専修大学フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会が11月25日、首都圏屈指のコンサートホールである川崎市のミューザ川崎シンフォニーホールで開催された。

プログラムはベートーヴェンの序曲「レオノーレ」第3番、同「ピアノ協奏曲第1番」、チャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」と、ホールの特性が生かされた繊細なメロディーからダイナミックな響きまで想像されるバラエティに富んだ構成。開場前には、1400人を超える聴衆が入場口の前で文字通り長蛇の列をなしており、期待の高さをうかがわせた。



▲11月25日、ミューザ川崎シンフォニーホールで開かれた定期演奏会 =写真提供・多摩スタジオ

最初の「レオノーレ」こそ、やや硬さがあったものの「ピアノ協奏曲第1番」ではピアノの藤井美紀さんの好演もあって、はつらつとした演奏を披露し、「交響曲第6番」は管弦楽のダイナミックな厚い響きを存分に楽しむことができた満場の大拍手に包まれた会場でアンコールはモーツァルトの歌劇「後宮からの逃走」序曲。晩秋の夕暮れにも似た清々しい軽やかなフィナーレとなった。

来年6月のサマーコンサートは、多摩市民館大ホールでドボルザーク「交響曲第7番」などの予定。(S・K)

◇クリスマスコンサートを12月18日(月)、12時10分から生田キャンパス9号館5階アトリウムで開催。